

役員改選迫る

新年を迎えると同時に役員が改選される。新役員の任期は2022年・2023年の2年。

現在の役職並びに定数は次のとおり（敬称略）。

会長 野口洋子（定数1）、副会長 門屋 登・伊達ひろみ（定数2）、会計 澤井公子・水野洋子（定数2）、監事 小沢まち子・大槻靖枝（定数2）。新役員の立候補受付は12月24日まで、野口会長まで申し出てください。会計以外は再任を妨げず、自薦・他薦は問いません。候補者が定数以上の場合は、投開票で選出。

新役員は、2月5日（土）＜新型コロナ対策で変更もある＞の美心会総会にて審議され、任命される予定。

伝統学ぶ年末年始

「行事は家族の幸せを願う気持ちを形にしたもの。大人になっても毎年その時期がくるたびに家族の思い出がよみがえり、子どもの宝物になる」例えば二十四節気のひとつ、冬至（今年は12月22日）。1年で最も日が短く、夜が長い。古くから「太陽が生まれ変わる日」と考えられ、希望に満ち、運気が上がっていくとされる。運がつくようにカボチャを食べ、ゆず湯に入る。「香りが強いゆず湯は邪気を払い元気に冬を乗り越えられると言われている」ゆず湯につかって、「一陽来復」と親子で繰り返し唱えるとよい。

日本文化では、新年を迎える行事は「掃除や飾り物をして、幸せを授けてくれる年神様を家に招く行事」だと考えられてきた。年末に行う大掃除は、雑巾の絞り方など掃除の仕方の基本を子どもや孫に教える機会にもなる。

行事も大切にしたい。農林水産省が昨年、20～69歳の2000人に実施した和食文化に対する調査では、正月、大晦日に、おせち料理、年越しそば、餅、お雑煮など行事食を毎日食べると答えた人は6割に上った。

◆年末年始の文化の由来や意味

| | | |
|---|--------|------------------------------------|
| お | 昆布巻き | みんなが喜ぶよいことがある |
| せ | 伊達巻き | 昔の書物の巻物に似て、もの知りになれる |
| ち | 丸まったエビ | 腰が曲がるまで長生きできる |
| 料 | 数の子 | たくさん子どもに恵まれる |
| 理 | 田作り | 豊作祈願 |
| | 年越しそば | そばのように長く生きられる |
| | お年玉 | 元々は家の主人が家族にお餅を分け与えていた |
| | 羽根突き | 邪気払いの意味がある。打ち損じると顔に墨を塗るのは魔除けのおまじない |
| | コマ回し | 物事が円満に運ぶ。うまく回ると子どもが早く独立できる |



「おせち料理にはそれぞれ意味合いがある」例えばお祝いに欠かせない3種の料理「三つ肴」は、関東では数の子、黒豆、田作り。黒豆には、日に焼けて真っ黒になるまでまめ（勤勉）に働けるよう願いが込められている。関西は田作りではなくたたきごぼう。根菜のごぼうに力強く健康にとの願いが託されているという。

地域や家で具材や味が異なるのがお雑煮だ。地元の産品を知るほか、親の出身地の味など家族のルーツもわかる。

東京なら、とりささみと角餅を入れた醤油味のすまし汁、京都では丸餅入りで白味噌味、広島はカキがはいるなど、地域の食材が入っている。

新 会 員 紹 介

のぐちよしこ
野口嘉子さん

2019年3月に転居。

入会のきっかけは、日曜日、同じ山岸先生が指導する勝浦清心会に属していましたが、訳がありまして美心会に移籍して練習することに致しました。

趣味は旅行（船旅を好む）、日本庭園、美術（日本画、琳派を好む）、音楽、ヨガ、読書と趣味の範囲が広い。

新入り（すでに相当修練を積んでいる様子）ですが宜しく願います。